

第181回教育研究評議会<議事要録>

- 日時 令和2年6月8日(月) 14:00 ~ 15:20
- 場所 <WEB会議により実施>
本部棟3階 特別会議室
- 出席者 服部学長, 藤田理事, 秋重理事, 荒瀬理事, 井川理事, 長澤理事, 肥後副学長, 出口副学長, 武田副学長, 金山副学長, 丸橋法文学部長, 加藤教育学部長, 村瀬人間科学部長, 鬼形医学部長, 廣光総合理工学部長, 井藤生物資源科学部長, 田中評議員, 河添評議員, 山崎評議員, 石原評議員, 小俣評議員, 川向評議員, 河野評議員, 廣瀬評議員, 境評議員, 村川評議員, 杉江評議員, 松崎評議員
- 欠席者 なし
〔陪席: 千家監事, 大学教育センター 美濃地准教授, 附属義務教育学校長, 監査室長, 企画部長, 教育・学生支援部長, 総務部長, 財務部長, 教育学部・人間科学部事務長, 医学部事務部長, 自然科学系事務部長, 企画広報課長, 総務課長, 入試企画課長, 学生支援課長〕

議題1 第3期中期目標期間における中期目標の達成状況報告書(案)及び学部・研究科等の現況調査表(案)について

- 荒瀬理事から第3期中期目標期間における中期目標の達成状況報告書(案)及び学部・研究科等の現況調査表(案)について説明があった。
- 千家監事から第3期中期目標・中期計画一覧表について, 特記事項に「優」(優れた点)と記載されている項目は自己評価が高いものから選出されるようになっているのか質問があり, 荒瀬理事から特記事項「優」を付しているものは基本的には自己評価「3」のものから選出しているとの回答があった。また, 肥後副学長から特記事項に「特」(特色ある点)と記載されている項目については自己評価で「2」が付いたものも含めて検討し選出したとの補足説明があった。
- 千家監事から中期目標の達成状況報告書の各小項目の総括において, 今後の課題がいずれも該当なしと記載されている理由について質問があり, 肥後副学長から教育・研究上の課題は様々あるが, 該当箇所は自己評価を行う過程で明らかになった中期計画の課題を記載する欄であるため, 自己評価が「2」(中期計画の達成が見込まれる)以上の項目については中期計画の達成という点における課題は見受けられないという意図で今後の課題を記載していないとの回答があった。
- 以上を踏まえ, 以後の修正は学長に一任するとして, 原案どおり議決された。

報告事項1 令和2年度入試実施状況分析について

- 大学教育センター美濃地准教授から令和2年度入試実施状況分析について報告があった。
- 学長から推薦入試及びAO入試の志願者数の推移について, 2016年~2018年に志願者数が低迷し2019年に増加した理由について質問があり, 美濃地准教授から再度分析し報告するとの回答があった。
- 松崎評議員から現在の社会情勢を踏まえ高校生への入試相談会をオンラインで行うといった新たな取組をしていく必要があるのではないかと質問があり, 美濃地准教授から高校生個々のネット環境等考慮すべき点はあるがオンラインの活用を進めていきたいとの回答があった。
- 秋重理事からへるん入試について, 広報活動や説明会から得られた情報を分析し受験者層を明確にした入試戦略を立てていく必要があるのではないかと意見があった。

- 長澤理事から例えばファッション雑誌のような砕けた表現を用いて高校生向けの大学広報誌を作成するなど、これまでとは異なるイメージ戦略を柔軟な発想で取り入れていくことが重要ではないかとの意見があった。
- 長澤理事から例えばオープンキャンパスをオンラインで開催すればこれまでアプローチ出来なかった地域や海外の学生を呼び込むチャンスとなることから、昨今の社会情勢を戦略の転換期と捉えて引き続き取り組んでもらいたいとの意見があった。

報告事項2 令和2年3月卒業・修了者の進路状況について（令和2年5月1日現在）

- 荒瀬理事から令和2年5月1日現在における令和2年3月卒業・修了者の進路状況について報告があった。
- 学長から県内就職率の低下への対策について質問があり、荒瀬理事から県内企業への就職割合が伸び悩んでいることからいかに県内企業への就職を確保していくかが近年の大きな課題であるとの回答があった。また、県内企業における卒業生の就職実績を分析し、実績がない企業への訪問などの対応を検討しているとの回答があった。
- 千家監事から新型コロナウイルス感染症の影響により学生・企業ともに対応を模索している状況であり、例年よりも就職活動の進捗が遅れている学生と県内企業を上手くマッチングさせるチャンスと捉え取り組む必要があるとの意見があった。
- 千家監事から卒業時の進路を見据えた上で入試戦略を定めていくことが重要であるとの意見があった。
- 松崎評議員から学生が就職先を決める際に待遇面の他にもその企業の社風や従業員の人の柄も重要な要素として捉えていることから、大学教育センターだけでなく学部の教員も含めて全学的に様々なコネクションを利用して学生と企業のマッチングをしていく必要があるとの意見があった。